貫井の風

令和３年度　１月号
ＮＯ．９

練馬区立貫井中学校　学校だより

教えてもらったことは忘れる

（すきやばし次郎主人：小野二郎）

今号は職人さんの考え方や生き方を皆さんに紹介します。皆さんがふだん学習する機会や、部活動に取り組む際の姿勢、あるいは将来の進路選択などに重ね合わせて参考にしてほしいと思います。以下話を紹介します。

「親方とか先輩に教えてもらおうと思って入ってくるのは大きな間違いで、自分が上の人のやり方を盗んで勉強して進歩していかなければいけない。というのは、教えてもらったことというのは忘れるんですよね。自分が盗んだものは忘れない。会社なんかでも同じだろうと思うんだけど、ポッと教えてやったら忘れちゃいます。自分が苦労して、苦労してこれを必ず自分のものにしようと思って、やっと盗んだものは決して忘れない。だから内の若い連中に、鮨の握り方を覚えろだの何だのとは言わないですけど、皆、昼飯が終わると、冷たい飯を温めて、自分で握る勉強をしています。そういうことを自発的にやれるようでなきゃダメですよ。私なんかが握るのを遠くから見ていて、そんなので覚えられるくらいなら、苦労なんて誰もしやしませんから。これは本人が自覚していくよりほかないんです。それができない人間では、一生良い職人にはなれませんね。でも実際、この店に来て、まともにやって残るのは十年に一人か二人くらいでしょう。だいたい、家がこれだけ雑誌やテレビに出ても、ここで修行したいって言う子はめったにいませんよ。

でも、どっちみち自分が寿司屋でしっかり勉強した方が、独立した時に良い仕事ができて、いいお客様をとれると思うんですよ。でも、そういう店は厳しいから嫌だという。

自分のわがまま放題、好き勝手なことをやっても将来ずっと通るかと言えば、私は通らないと思います。何事も一番底辺から覚えていなかったら、一人前にはなれません。まず、十年は辛抱しないと、その仕事をほとんど芯から覚えていくことは難しい。

でも、朝が早いから嫌だとか、夜遅いから嫌だとか、そういう人たちばっかり。これは人間の基礎ができていないんじゃないかと思うんです。だから私はよく言うんです。一つの仕事を一生懸命やって、苦労して少しずつ頭を持ち上げていったら、自分が将来一番楽だろうって。一人前になって家庭を持ったときでも、苦労が少なくてすむと思うんですよ。」

皆さんはこの話を読んでどう思いましたか。何かをやろうとしたときに、確かに進んでやったことは記憶にも鮮明に残りますし、しっかりとした自分の血肉として身に付いていくなと思います。

私が中学生の頃、どうしても良く理解できない数学の比率の問題について、担当の先生に職員室まで質問に行ったことがありました。その先生は、ある公式を自分に提示して、「これを使って計算すると直ぐにできるよ」とサラッと教えてくれました。その時に学んだことは、何十年経っても忘れていません。自分から進んで行動することの大切さを知りました。皆さんも、ご主人の見方や生き方を参考にしてみてください。

自治とは

１１月の生徒総会で生活委員会に対して生徒から質問が出されました。内容は学校の日常生活でカーディガンの着用を認めてほしいというものでした。もちろん生活委員会で決定する内容ではないので、委員会に持ち帰って先生方のアドバイスをもらいながら学校とともに検討を進めてくという回答がされました。カーディガンについては２年前の生徒総会でも話題になり、生徒から質問が出され、当時の生活委員会委員長と質問した生徒の間で、生徒総会の場でかなり意欲的な意見交換がされたことがありました。

特に生活委員長の生徒からは、生徒の服装がだらしなくなるという、服装の乱れそのものへの心配が意見として出されました。一方質問者からは、意見に対して真剣に向き合う気持ちがないから認めないという答えを出しているのではないかという言い方がされました。そのような経緯があり、改めてこの度の生徒総会での検討材料となったようです。

これらのようすを見たり、聞いたりしていて、大変良いなと思いました。その理由は、一つのことを真剣に考えている。意見や要望をしっかりと整理して考えを述べている。賛成、反対の立場を取りながらしっかりとした意見の交換が出来ていることです。

生徒会活動は自治活動であるとともに、生徒たちにとっては学習の場でもあります。その場に真摯に向き合い、しっかりと意見を交換し、より良い学校生活について考えている姿に感動しました。

皆さんの先輩たちが、カーディガンの着用を通じて自らの学校生活をより良くしていこうとしている姿は大変立派でした。同時に、これが生徒会活動に求められているものだと思います。さまざまな経緯の後に再び、同様の意見が出され検討に至っていた。カーディガンを認める、認めないという単純なことだけではなく、中学生に相応しい服装や、着こなしというものについて生徒の皆さん自身がしっかりと考え、行動できるようになってほしいと思います。決して、だらしない、乱れた服装に陥ることなく、貫井中生らしい、清々しい服装を選んでほしいと思います。と同時に、自治とは自らがしっかりと責任をもつ、責任を取るという意味を含んでいることを忘れないでほしいです。

高校受験の思い出

４０年以上前の高校受験。いまでも苦い思い出が残る。受験前日に体調を崩し、４０度近くの高熱を出して寝込んだことです。

私の生まれは北海道・釧路市で、当時高校の数が少ないことが市議会で問題になっていた地域。私は高校を受験する際に、道立高校の受験機会を失いそうになり、高校進学を諦めなくてはいけない窮地に追い込まれたことがありました。ただ、体調を崩した理由に思い当たることがあった。

学校帰りに友人たちと、雪の中でふざけて遊び、濡れてしまい、そのまま家で居眠りをしたこと。目が覚めたときには何でもないと思っていたが、入試前日の朝、体がだるく重くなっていた。親には学校を休むと伝え、学校に欠席の連絡を入れてもらう始末。熱を測ると３７度５分。そして、さらに熱は上がる一方。昼頃に熱は何と３９度５分。さすがに参った。熱にうなされ、翌日の受験どころではない状況になり、家で苦しみました。

夕方６時過ぎに親が帰宅し、自分の状況を聞いて大慌て。やっている病院はすでに無く、より焦る。その時に父親が知り合いの医者に電話すると言ってくれ、電話してくれた。毛布にくるまった状態で病院につれて来いと言われ行く。

父の知り合いの医師は、穏やかな表情で「大丈夫。熱は下がるから」と言ってとてつもなく太い注射を２本用意。一つは熱を下げる注射。もう一つは痛みを感じ無くさせる注射。と思われた。

１時間後、熱は３７度２分まで下がる。食欲はないが、何とか受験できるかもと思った。そして、翌日から２日間にわたる受験。いずれも１時間目の教科はよく覚えていない。目が回っている状態で受験。全然といって良いぐらい問題文をまともに読めなかった。自己採点すると、点数は今までに取ったことがない点。でも何とか合格できた。父の知り合いの医師がいなかったらどうなっていたか。

「油断大敵」。受験は何が起こるか分からない。３年生の皆さん、これから受験本番。準備万端、悔いが残らないよう、体調管理もしっかりとしてください。

都内めぐりの思い出

２年生

僕が校外学習実行委員長を務めて学んだことと、校外学習当日までの準備期間、校外学習当日で学んだことを紹介します。

最初に校外学習実行委員長を務めて学んだことは二つあります。

一つ目は、実行委員会での大変さです。なぜなら、実行委員会は何度もあり、その中で何時間も話し合いをして、校外学習でのルールを決めたりしたからです。

二つ目は、周りの人をまとめることの難しさです。なぜなら、多くの人をまとめるには指示力と伝える力が必要でとても苦労したからです。

次に校外学習当日までの準備期間で学んだことは二つあります。

一つ目は、班員とのコース決めの時に協力することの大切さです。なぜなら、班員全員で協力しないとコースが作成できずに進まないからです。

二つ目は、自分の役割をしっかりと果たすことがとても大切だということです。なぜなら、班員一人一人に班長などの係があり、一人でもその仕事をサボると他の人に迷惑がかかってしまうからです。

最後に校外学習当日で学んだことは二つあります。

一つ目は、電車の中などでのルールやマナーです、なぜなら、来年の修学旅行で生かされるからです。

二つ目は、班員と移動するときの大変さです。なぜなら、六人で何本もの電車に乗り降りするのがとても大変だったからです。

今回の校外学習で色々な経験をしました。この経験を忘れずに来年の修学旅行に生かしていきたいです。

仲が深まった川越探険

１年生

私が今回の川越の校外学習で、学べたことは周りの人と協力して自分たちの力で物事を進めたり、解決したりする事です。

私の班では午前中は計画通りスムーズに回れていました。しかし、北公民館で昼食を食べた後、次に行く場所がとても遠くて、地図を見

ても少し分かりづらく、困ってしまいました。その時、一人の子が「道が違っても、時間がかかっても、これも学習だから、とりあえず進もう」と言ってくれたことで、班のみんなで「こっちじゃない」と相談をして、目的地にたどり着きました。時間は十五分くらいオーバーしていましたが、これも良い思い出になりました。

校外学習で特に楽しかったことは二つあります。

一つ目は熊野神社でおみくじを二回引いて、二回とも大吉だったことです。今までに二回連続良いくじが出ることはなかったので嬉しかったです。

二つ目は、本丸御殿です。本丸御殿は思っていたより広く、部屋がたくさんあって驚きました。

途中、時間がずれてしまったところが一部ありましたが、班のみんなで協力できたので帰りの電車に間に合わせることができました。班のみんなで道を考えたことで、校外学習に行く前よりも仲が深まったと思います。今年の校外学習を活かし、来年の校外学習も、班員と協力し、充実した一日になるようにしたいです。

クリーン運動１２／１１

貫井中学校のクリーン運動が実施されました。

目的は、（１）自分たちの生活環境をきれいにする意識を高める。（２）近隣地域の清掃を通して、地域貢献を図るとともに、奉仕の心を育てる。（３）生徒会活動の一環として、生徒が主体となって取り組み生徒会員として意識を高めるです。

全校生徒一丸となって、短時間ですが一生懸命に取り組みました。生徒会本部役員は、全校生徒が地域を回っている間にゴミの収集をしっかり分別して行うことができるよう準備をしていました。また、用務スタッフさんのお手伝いも行いました。

実際に生徒たちが地域をいろいろと回りましたが、日常的にきれいに掃除がされているためか、地域にはあまりゴミはなかったのが現状でした。それでも、生徒たちは「よく見つけてきた！」という感じでゴミを収集してきました。

わずかな時間の取組でしたが、最後にはゴミをしっかりと分別して回収することができました。

ご存じでしたか

２０２０東京オリンピック、男子柔道１００㎏級で金メダルに輝いたウルフ・アロン選手が昨年の２月に貫井中学校を表敬訪問していたことを皆さんはご存じでしたか。柔道部の３年生や２年生は、知っている人たちも多いかと思います。 実は、本校の柔道部が「近代柔道」という雑誌の取材を受け、その取材に応じてくれたお礼という意味を兼ねて、柔道の全日本の強化指定選手、世界選手権や全日本選手権の覇者であり元東海大学柔道部監督であった先生が、三人ご一緒に貫井中学校を訪問されていたんです。その中の一人にウルフ・アロン選手がいらっしゃいました。

来校された際には、柔道部の生徒たちに技を披露したり、技術向上のための教えを頂いたり、気軽に質問にも応えていただきました。ウルフ選手は、貫井中に来校した時点で世界選手権、全日本選手権の優勝経験がありましたが、とうとう金メダルまで獲得したのでした。あらためて思いましたが、すごいですね。でも、そのような方と気軽に話せたり、教えをいただいたりした生徒たちは本当に幸運だったと思います。